委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム（A）】

受託団体名　総社市

1．事業名称

総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業

2．事業の目的

地域に暮らす外国人住民が，日本人住民との交流を通して，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報を得ることのできる場を設けるとともに，言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を，隣人としてサポートする地域の人材を育成し，外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

3．事業内容の概要

地域に暮らす外国人住民を対象に，生活に必要な日本語を指導し，講習会や体験学習を通して日本人住民との交流を促進しながら，地域生活を営む上で不可欠な保健・医療・福祉・教育・防災などの各種行政情報を提供する「地域でつながる日本語教室」を開設する。日本語教室の運営を行うにあたり，外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材を育てる「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」を実施するとともに，地域ならではの生活行為に基づく表現や用例を用いた「地域密着型日本語学習教材」の作成を行う。

4．運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月6日（木）15:00～17:30	2.5時間	市役所2階会議室	三村　和久 中東　靖恵 平松　秀昭 樂木　章子 尾崎　喜光	H24年度総社市日本語教育事業の概要について	平成24年度総社市日本語教育事業に関し，事業目的・事業概要を説明するとともに，各取り組み（日本語教室，人材養成研修，学習教材作成）についての概要，年間スケジュール，日本語教室・人材育成研修への受講者申し込み状況について報告が行われた。
2	平成24年12月13日（木）15:00～17:30	2.5時間	市役所2階第2委員会室	三村　和久 中東　靖恵 平松　秀昭 樂木　章子 尾崎　喜光	H24年度総社市日本語教育事業の中間報告	平成24年度総社市日本語教育事業に関し，各取り組み（日本語教室，人材養成研修，学習教材作成）についての現状，進行状況の報告，中間アンケートの結果報告（日本語教室・人材養成研修），各取り組みについての課題について検討が行われた。
3	平成25年3月13日（水）14:00～17:00	3時間	市役所2階第2委員会室	三村　和久 中東　靖恵 平松　秀昭 尾崎　喜光	H24年度総社市日本語教育事業の最終報告	平成24年度総社市日本語教育事業に関し，各取り組み（日本語教室，人材養成研修，学習教材作成）についての最終報告，最終アンケートの結果報告（日本語教室・人材養成研修），今年度事業の反省，次年度事業への課題について検討が行われた。

【写真】

5. 日本語教室の設置・運営

（1） 講座名称

地域でつながる日本語教室

（2） 目的・目標

地域に暮らす外国人住民が，日本人住民との交流を通して，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報を得るとともに，外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう，地域住民同士がつながる場を提供することを目的とする。

（3） 対象者

地域に居住する外国人住民

（4） 開催時間数（回数）

60 時間 （全 30 回）

（5） 使用した教材・リソース

教授者自作教材，総社市役所作成資料・パンフレット・リーフレット他

（6） 受講者の総数 45 人

（出身・国籍別内訳 ブラジル：25 人，ペルー：3 人，中国：8 人，パキスタン：4 人，韓国：1 人，タンザニア：1 人，台湾・アメリカ：1 人，フィリピン：1 人，ネパール：1 人）

（7） 受講者の募集方法

総社市ホームページ，総社ブラジリアンコミュニティホームページ，FACEBOOK，広報「そうじゃ」6 月号，外国人住民向け広報誌「SOJA BRAZILIAN NEWS」（ポルトガル語）に掲載。募集チラシ（添付資料②参照。「やさしい日本語」をベースにポルトガル語，中国語，英語付記）を，市内外国人世帯への送付，公民館等文化施設へ配布。総社ブラジリアンコミュニティを通じての周知。

（8） 日本語教室の具体的内容

具体的な日本語教室の内容は，以下の通りである。

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年8月5日 （日） 9:30～11:30	2時間	27人	ブラジル（16人）、ペルー（3人）、中国（6人）、台湾・アメリカ（1人）、韓国（1人）	自己紹介	自己紹介をするために必要な表現を学び，実践練習をした。 【イベント】「ともだちをたくさんつくりましょう」ゲーム
2	平成24年8月12日 （日） 9:30～11:30	2時間	22人	ブラジル（15人）、ペルー（1人）、中国（4人）、台湾・アメリカ（1人）、パキスタン（1人）	総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を学び，市職員を相手に実践練習をした。 【イベント】「「と」から始まることば」ゲーム
3	平成24年8月19日 （日） 9:30～11:30	2時間	27人	ブラジル（18人）、ペルー（3人）、中国（5人）、台湾・アメリカ（1人）	水道代・電気代など公共料金を支払う	水道・電気・ガス代の請求書・領収書の明細の読み方や料金の支払い方法について学んだ。 【イベント】書道パフォーマンス
4	平成24年8月26日 （日） 9:30～11:30	2時間	21人	ブラジル（12人）、ペルー（1人）、中国（6人）、台湾・アメリカ（1人）、韓国（1人）	総社市役所の窓口で相談する	総社市役所の窓口で必要となる表現を学び，市職員を相手に実践練習をした。 【イベント】「ともだちをたくさんつくりましょう」ゲーム
5	平成24年9月2日 （日） 9:30～11:30	2時間	25人	ブラジル（12人）、ペルー（1人）、中国（6人）、台湾・アメリカ（1人）、韓国（1人）、パキスタン（4人）	ごみの出し方	ごみの種類，分別・回収方法など，ごみ出しに必要な語彙・表現を，実物を使用しながら学んだ。 【イベント】新聞紙でエコバッグを作る
6	平成24年9月9日 （日） 9:30～11:30	2時間	20人	ブラジル（9人）、ペルー（1人）、中国（4人）、台湾・アメリカ（1人）、韓国（1人）パキスタン（3人）、タンザニア（1人）	公共交通機関の利用方法	公共交通機関の予約方法や時間の表示方法に必要な表現を学んだ。 【イベント】デマンドタクシー「雪舟くん」利用説明
7	平成24年9月16日 （日） 9:30～11:30	2時間	18人	ブラジル（10人）、中国（2人）、台湾・アメリカ（1人）、韓国（1人）パキスタン（3人）、タンザニア（1人）	日本の昔話	桃太郎伝説発祥の地といわれる総社にちなんで，桃太郎の昔話について学んだ。 【イベント】桃太郎の紙芝居・寸劇・歌
8	平成24年9月23日 （日） 9:30～11:30	2時間	23人	ブラジル（9人）、ペルー（1人）、中国（6人）、台湾・アメリカ（1人）、韓国（1人）パキスタン（3人）、タンザニア（1人）、フィリピン（1人）	交通マナーを学ぶ	道路標識の種類・意味や，日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。 【イベント】交通安全・交通マナー講習
9	平成24年9月30日 （日） 9:30～11:30	2時間	18人	ブラジル（8人）、ペルー（1人）、中国（5人）、パキスタン（3人）、タンザニア（1人）	買い物をする・スーパーのちらしを読む	買い物に必要なちらしの見方や数字の読み方について学んだ。 【イベント】日本文学講座
10	平成24年10月7日 （日） 9:30～11:30	2時間	20人	ブラジル（8人）、ペルー（1人）、中国（6人）、韓国（1人）、パキスタン（3人）、フィリピン（1人）	買い物をする場所	スーパーや量販店への行き方を説明する表現や店内で見かける表示について学んだ。 【イベント】「ことば」ゲーム
11	平成24年10月14日 （日） 9:30～11:30	2時間	19人	ブラジル（8人）、ペルー（2人）、中国（5人）、韓国（1人）、パキスタン（3人）	病院での初診手続き・容態を伝える	病院で容態を伝え，初診手続きを行うのに必要な表現を学んだ。 【イベント】日本語教室の展示準備作業
12	平成24年10月21日 （日） 9:30～11:30	2時間	15人	ブラジル（4人）、ペルー（3人）、中国（5人）、パキスタン（2人）、タンザニア（1人）	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】日本語教室の展示を見学
13	平成24年10月28日 （日） 9:30～11:30	2時間	15人	ブラジル（7人）、ペルー（3人）、中国（4人）、韓国（1人）	110番・119番に電話し，警察・救急車を呼ぶ	110番・119番への電話通報に必要な表現を学び，実践練習をした。 【イベント】「書き取り」ゲーム
14	平成24年11月4日 （日） 9:30～11:30	2時間	15人	ブラジル（6人）、ペルー（1人）、中国（6人）、パキスタン（2人）	学校制度・学校行事	日本の学校制度や学校行事に関する語彙，季節・時間に関する表現を学んだ。 【イベント】パン食い競争，カルタゲーム
15	平成24年11月11日 （日） 9:30～11:30	2時間	13人	ブラジル（5人）、ペルー（1人）、中国（6人）、タンザニア（1人）	学校での活動	日本の学校で学ぶ教科の名称や，制服・給食など日本の学校に独自の習慣について学んだ。 【イベント】歌「翼をください」
16	平成24年11月18日 （日） （授業振替）	―	―	―	国際交流イベントに参加する	カミガツジプラザで開催された「総社国際フェスタ」で，各国料理販売，各国写真展示，歌や踊りのステージに参加した。
17	平成24年11月25日 （日） （授業振替）	―	―	―	防災訓練に参加する	山手小学校グラウンドで行われた総社市防災訓練に参加した。バケツリレーによる消火訓練，炊き出し体験を行い，防災意識の向上を図った。
18	平成24年12月2日 （日） 9:30～11:30	2時間	10人	ブラジル（4人）、ペルー（1人）、中国（4人）、タンザニア（1人）	アルバイト・パートの求人広告の見方	無料の情報誌を利用し，求人広告の見方や仕事に関する語彙を学んだ。 【イベント】「日本の冬」に関する連想ゲーム
19	平成24年12月9日 （日） 9:30～11:30	2時間	10人	ブラジル（3人）、中国（6人）、タンザニア（1人）	職場でのあいさつの仕方・履歴書の書き方	職場での丁寧な言葉づかいやあいさつ表現，履歴書の書き方を学んだ。 【イベント】「就労支援ルーム」紹介

20	平成24年12月16日 （日） 9：30～11:30	2時間	11人	ブラジル（7人）、ペルー（1人）、中国（3人）	図書館・レンタルショップの利用方法	本やDVDを借りる時や返却する時に使う語彙・表現を学んだ。 【イベント】総社市図書館見学
21	平成24年12月23日 （日） 9：30～11:30	2時間	11人	ブラジル（7人）、ペルー（1人）、中国（3人）	葉書を書いて出す	年末年始に使うきまり文句や表現を学び，日本の年末行事として年賀状を書く体験をした。 【イベント】年末年始のゴミ収集日について
22	平成25年1月6日 （日） 9：30～11:30	2時間	9人	ブラジル（4人）、中国（2人）、パキスタン（2人）、タンザニア（1人）	冠婚葬祭，誘いを受ける・断る	日本の結婚式・葬式に関する習慣（祝儀，香典，焼香，服装など）や決まり文句について学んだ。 【イベント】獅子舞を見る
23	平成25年1月13日 （日） 9：30～11:30	2時間	12人	ブラジル（6人）、ペルー（1人）、中国（4人）、タンザニア（1人）	医者の診察を受ける。病気への対処法	病院で診察を受ける際に必要な語彙・表現を学び，実際の診察室で実践練習をした。 【イベント】「「ん」で終わることば」ゲーム
24	平成25年1月20日 （日） 9：30～11:30	2時間	8人	ブラジル（4人）、中国（4人）	火災で110番・119番に電話する	火災を通報する際に必要な，けがや火事，場所や道順を教える語彙や表現を学んだ。 【イベント】「色集め」ゲーム
25	平成25年1月27日 （日） 9：30～11:30	2時間	13人	ブラジル（5人）、ペルー（4人）、中国（4人）	交通事故を近くの人に知らせる	交通事故を通りがかりの人に知らせる際に必要な語彙を学び，ロールプレイで実践練習をした。 【イベント】消防署見学・消火訓練
26	平成25年2月3日 （日） 9：30～11:30	2時間	7人	ブラジル（3人）、中国（4人）	処方箋をもらう。薬の説明を理解する	薬の種類，薬袋や処方箋に書かれてある語彙・表現を市販の薬など実物を利用して学んだ。 【イベント】節分の豆まき
27	平成25年2月10日 （日） 9：30～11:30	2時間	7人	ブラジル（3人）、中国（3人）、ネパール（1人）	日本の観光地・岡山の観光地，行事・祭り	日本国内・岡山県内の観光地・祭り・イベントについて知り，各種情報を得るための表現を学んだ。 【イベント】「「さ」から始まることば」ゲーム
28	平成25年2月17日 （日） 9：30～11:30	2時間	13人	ブラジル（7人）、ペルー（1人）、中国（4人）、ネパール（1人）	総社の観光名所・祭りやイベント	総社の観光地や名産物，総社の祭りやイベントについて知り，情報を得る方法を学んだ。 【イベント】「雪舟」紙芝居
29	平成25年3月3日 （日） 9：30～11:30	2時間	10人	ブラジル（4人）、ペルー（1人）、中国（5人）	日本の年中行事	日本の年中行事や祝日について，具体的な行事の内容や風習，謂れなどについて学んだ。 【イベント】ひな祭りを祝う
30	平成25年3月10日 （日） 9：30～11:30	2時間	12人	ブラジル（5人）、ペルー（1人）、中国（5人）、タンザニア（1人）	公共マナー，引っ越しのあいさつ	公共マナーと，引っ越しの際に使う決まり文句や引っ越しのあいさつ時に贈る物について学んだ。 【イベント】合同修了式

（9）　特徴的な授業風景（2～3回分）

第２回　８月 12 日（日）総社市役所に電話し外国人相談員を呼ぶ ■総社市役所内にある外国人相談窓口に常駐する外国人相談員を電話で呼び出すために必要な語彙・表現を学び，市職員を相手に，電話を用いて実践的な練習を行った。	
第３回　８月 19 日（日）書道 講師：徳眞書道教室　松本　真明 ■日本文化の代表ともいえる「書道」の体験学習を行った。受講者一人一人が好きな文字を選び，講師の手本を見ながら，作品として仕上げた。	
第５回　９月２日（日）新聞紙でエコバッグを作る 講師：総社市日本語教室コーディネーター　中東　靖恵 ■ゴミの減量化や環境問題を考えるエコロジー活動の一つとして，新聞紙を使ってエコバッグを作る方法を体験的に学んだ。	

第 6 回　9 月 9 日（日）「雪舟くん」の利用説明 講師：総社市人権・まちづくり課安全安心係　係長　内田　和弘 ■総社市のデマンド・タクシー「雪舟くん」をより多くの外国人が活用できるよう，市職員により利用説明が行われ，具体的な予約方法などを学んだ。	
第 8 回　9 月 23 日（日）交通安全・交通マナー講習 講師：総社市人権・まちづくり課安全安心係 交通安全指導員　竹下加奈子，岩本多加子，主任　横田　直子 総社警察署　交通課　森宗　元己　警部補 ■交通事故防止のための啓発活動として，市職員による交通安全講習が行われ，交通マナーについて学んだ。	
第 9 回　9 月 30 日（日）日本文学講座 講師：ノートルダム清心女子大学准教授　新美　哲彦 ■外国人が普段あまり知ることのできない平安時代の日本文学作品「源氏物語」について講義を受け，日本の伝統文化としての日本文学に触れた。	
第 11 回　10 月 14 日（日）日本語教室の展示準備作業 ■総社市日本語教室での活動を，広く総社市住民に知ってもらうため，日本語教室の展示を行うことにした。日本語教室で学ぶ受講者一人一人が，日本人住民に対してメッセージを書き，ボードに貼り付けた。	
第 12 回　10 月 21 日（日）日本語教室の展示を見学 ■日本語教室の展示を，10 月 17 日～11 月 2 日まで，市庁舎 1 階ロビーで行った。メッセージボードのほか，書道の作品を展示した。日本人からのメッセージや励ましの声が多数寄せられた。市庁舎での展示終了後，展示パネルが岡山市内の岡輝公民館で再展示された。	
第 16 回　11 月 18 日（日）総社国際フェスタに参加 ■日本人住民と外国人住民の交流イベントの一つとして「総社国際フェスタ」がカミガツジプラザで開催された。日本語教室の学習者も，各国料理販売，各国写真展示，歌や踊りのステージに数多く参加した。	

第 17 回　11 月 25 日（日）総社市防災訓練に参加 ■山手小学校グラウンドで行われた総社市防災訓練に参加した。日本人住民と一緒に，バケツリレーによる消火訓練や，炊き出しを実体験することにより，防災意識の向上を図った。	
第 19 回　12 月 9 日（日）　就労支援ルーム紹介 講師：ハローワーク総社　相談員　キシモト・ダニエル ■仕事を探す際の相談窓口として，ハローワーク総社内に設置された「就労支援ルーム」の紹介を行うとともに，求人票の見方，仕事の探し方，履歴書の書き方や記入の際の注意点などについて学んだ。	
第 20 回　12 月 16 日（日）　総社市図書館見学 講師：総社市図書館　次長　坂本　満理枝 ■市の公共施設の利用方法を学ぶために，総社市図書館を見学した。図書館職員により，基本的な図書館の利用方法について説明を受けた後，図書館内を案内してもらい，希望者は「図書館利用カード」を作成した。	
第 21 回　12 月 23 日（日）　年賀状の作成 ■日本の文化・習慣を学ぶ授業の一環として，年賀状を作成した。年賀状に書く決まり文句や干支（来年は巳年）の意味を学び，日本語教授者宛てに年賀状を書き，教授者からも受講者宛てに年賀状を送った。	
第 21 回　12 月 23 日（日）年末年始のゴミ収集日について 講師：総社市市民環境部環境課美化推進係　主事　奥村　友美 ■年末年始のゴミ収集日が通常とは異なるため，受講者の居住地区ごとに，年末のゴミ収集最終日と年始の収集開始日についてアナウンスが行われた。	
第 22 回　1 月 6 日（日）　獅子舞を見る 講師：総社市人権・まちづくり課国際・交流推進係　松重　広美 ■新年最初の授業で，正月の伝統行事「獅子舞」を体験した。獅子に頭をかんでもらうと，一年間無病息災で過ごせ，福が来るという謂れのあることも学んだ。	

第 25 回　1 月 27 日（日）　消防署見学・消火訓練 講師：総社市消防署教養訓練係　主任　丸川　秀明 消防士　永野　男　　消防士　佐々木　寛文 ■火災や事故防止への意識向上のため，総社市消防署へ見学に行った。実際に消火器を使った消火訓練や AED の使用方法について学び，防災・救急への意識を高めた。	
第 26 回　2 月 3 日（日）　節分の豆まきをする 講師：総社市人権・まちづくり課国際・交流推進係　松重　広美 ■日本の文化・習慣を学ぶ授業の一環として，授業日が節分の日にあたっていたため，職員と日本語学習サポーターが鬼役となり，豆まきをした。「節分」の意味や，豆まきや恵方巻きを食べる風習などについても学んだ。	
第 28 回　2 月 17 日（日）　総社を知る ■総社に生まれた有名な水墨画家「雪舟」の生涯と，涙で描いたネズミの有名なエピソード，雪舟が修行をした宝福寺，雪舟が描いた大作「山水長巻」「天橋立図」などについて，総社市図書館所蔵の大型紙芝居を使って学んだ。	

（10）　目標の達成状況・成果

今年度日本語教育事業においては，文化審議会国語分科会策定の「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」に基づき，地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成 24 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」（30 単位：添付資料①）に従い，学習シラバス（2 時間×30 回＝60 時間）を作成して授業を行った。具体的な授業運営方針は以下の通りである。

■できるだけ多くの外国人住民が参加できるよう，就労者でも通いやすい日曜日の午前中（9:30～11:30 までの 2 時間）に日本語教室を開き，家族とともに参加できるよう，保育・託児を無料で設ける。

■受講対象となる外国人就労者の多くが毎回継続的に日本語教室に通うことは難しいため，文法積み上げ式でなく，1 回完結型で授業を行い，宿題は課さないこととする。

■日本語教育の質を確保するため，有資格者である日本語教師が日本語の教授にあたる。

■教授者が一方的にしゃべるのではなく，できるだけ受講者が話す機会を得られるようにし，受講者の受動的活動ではなく「能動的活動」に重点を置く授業展開をする。

■現実の場面により近い場を設けてリアル感を演出したり，実体験を伴う教室活動を行うことで（例：市役所に電話をかける練習を市職員を相手に実体験，医療場面における診察室の利用，年賀状を実際に書いて郵便ポストに出す，エコバッグを作るなど），学習効果の促進を図る。

■イベントやゲーム（例：「と」から始まることばゲーム，「ともだちをたくさんつくりましょう」ゲームなど）を通じ，楽しみながら，かつ日本人との交流を通じて生きた日本語に触れることで，

日本語学習の促進および学習意欲の向上と継続を図る。

■外国語としての日本語習得だけではなく，日本文化に関する講座，市職員による講習会や体験学習，防災訓練等のイベントへの参加など，日本人との交流や日本語を使用した活動を通して，生活に必要な日本語を実践的に学び，コミュニケーション能力の向上を図る。

■地域生活を営む上で不可欠な保健・医療・福祉・教育・防災などの各種行政情報を，日本語教室を通じて提供する。

■外国人住民の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」が教室に参加することにより，教室内でより細かなサポートを行えるようにするとともに，外国人住民と日本人住民との交流を促し，地域住民同士がつながる場として機能するようにする。

毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」およびミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い，日本語教室受講者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果（添付資料④⑤）により検証を行い，日本語教室の設置・運営の目的として掲げた以下の点について，一定の成果を上げることができたことが確認された。

①日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上：

日本語教室においては，ゆるやかに 2 つのクラス（クラスⅠ：日常会話が難しく，ひらがなが読めない人が多い，クラスⅡ：日常会話はかなりできるが難しい話はできない，ひらがな・カタカナは読める人が多いが漢字が読めない）に分けて教室運営を行っている。日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果，どちらのクラスにおいても，日本語の 4 技能（聞く・話す・読む・書く）における能力向上や「きちんとした日本語を習得できた」と実感している者が多いことが分かった。また，教授者および日本語学習サポーターからの意見の中でも，とりわけ，よりレベルの低いクラスⅠにおける会話能力の向上の目覚ましさが指摘された。

なお，両クラスにおける日本語学習・習得状況に関する意識の違いも見られ，日本語レベルのより高いクラスⅡでは授業内容が「難しくない」と感じる人が多い一方，クラスⅠでは授業内容が「難しい」と感じる人と「難しくない」と感じる人に分かれる結果となり，クラスⅠにおける学習者間のレベル差の大きさが改めて浮き彫りとなった。

アンケートに答えた受講者全員が「日本語教室が楽しい」と回答しているほか，日本語教授者の教え方が上手であるとのコメントが寄せられており，授業に対する評価は良好と言えるだろう。

②地域に密着した生活情報の獲得：

総社市日本語教育事業においては，事業が開始された平成 22 年度より一貫して，外国語としての日本語習得だけではなく，日本文化に関する講座，市職員による講習会や体験学習，防災訓練等のイベントへの参加など，日本人との交流や日本語を使用した活動を通して，生活に必要な日本語を実践的に学びながらコミュニケーション能力の向上を図るとともに，地域生活を営む上で不可欠な保健・医療・福祉・教育・防災などの各種行政情報を日本語教室を通じて提供することを目的に，教室運営を行っている。

日本語教室における外国人向け体験学習・講習会の実施は総社市各担当部署との連携により，また，その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は，岡山県内の NPO，各種機関・団体との連携により行われている。今年度実施事業については以下の通りである。

（ア）総社市各担当部署との連携

■人権・まちづくり課安全安心係による「雪舟くん」利用講習（平成 24 年 9 月 9 日）

■人権・まちづくり課安全安心係による交通安全講習（平成 24 年 9 月 23 日）

■日本人住民との合同防災訓練（平成 24 年 11 月 25 日）

■総社市図書館司書による図書館利用講習（平成 24 年 12 月 16 日）

■環境課によるゴミ収集日のアナウンス（平成 24 年 12 月 23 日）

■総社市消防本部による消防署見学・消火訓練（平成 25 年 1 月 27 日）

（イ）岡山県内の NPO，各種機関・団体との連携

■AMDA 国際医療情報センターとの協働事業で作成された『総社市多言語医療ガイド』（5 か国語版）を利用した授業の実施（平成 24 年 10 月 14 日，平成 25 年 1 月 13 日，2 月 3 日）

■ハローワーク総社内「就労支援ルーム」との連携による就職支援講習（平成 24 年 12 月 9 日）

■総社市コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティとの連携による国際交流イベントの開催（平成 24 年 11 月 18 日）

■徳眞書道教室講師による日本語教室での書道パフォーマンス（平成 24 年 8 月 19 日）

■ノートルダム清心女子大学教員による日本文学講座（平成 24 年 9 月 30 日）

また，日本の生活情報・行政情報を得るためには，「文字習得」が不可欠であることから，毎回の授業において必ず文字（クラスⅠ：ひらがな・カタカナ，クラスⅡ：漢字）を練習する時間を設けている。漢字練習の際は，教授者がオリジナルに作成した「生活場面に即した漢字」（例：市役所で使う漢字，スーパーの漢字，ごみ出しの漢字など。学習教材『地域でつながる日本語教室 2012』（総社市日本語教室編）の「漢字練習シート」参照）を選び，受講者からのニーズが高い「漢字の書き順」とともに教授している。

日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果，どちらのクラスにおいても，「日本の文化や習慣を知ることができた」「総社市役所の情報を知ることができた」と実感している者が多く，とりわけクラスⅡでは，日本語能力の向上よりも，生活情報の獲得に対する満足感が大きいことが明らかとなった。

なお，日本の文化・習慣や行政情報については，日本国内においても地域差があることから，日本語教室の外国人受講者だけでなく，日本人教授者や日本語学習サポーター間においても，良い情報交換の場になったという意見が寄せられた。

③地域住民同士がつながる場の提供：

今年度事業においては，日本語教室の設置・運営と同時に開設された日本語教育を行う人材の養成・研修「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」における研修の一環として，地域に暮らす日本人住民が，日本語教室で外国人住民の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」として参加することにより，教室内でより細かなサポートを行えるようにするとともに，外国人住民と日本人住民との交流を促し，「地域住民同士がつながる場」として日本語教室が機能するようなシステムづくりを試みた。

また，外国人住民と日本人住民との交流という点に関しては，市職員も地域住民であることから，市職員による講習会や体験学習，防災訓練等のイベントを通じて，日本語教室が「市職員と外国人住民とがつながる場」となるとともに，市職員の多文化共生・外国人支援に対する意識啓発および意識向上を図る場となることも目的とした。

日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果，どちらのクラスにおいても，日本語教室への参加を通じて「日本人としゃべる機会が増えた」「近所の日本人と交流する機会が増えた」と感じる者が多く見られ，職場で日本人との会話が増えたことや日本人との交流を深めることができたことへの喜びや，日本語教授者や日本語学習サポーターによる支援を心強く感じているというコメントが寄せられた。

④地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り：

今年度事業で初めての試みとして，日本語教室の展示を行った。この展示は，本市日本語教室コーディネーターと日本語教授者らが，広島県にある呉市日本語教室「ひまわり 21」に教室見学で訪れた際，地域の多文化共生活動を推進するための試みとして「ひまわり 21」が実施している活動の一つとして情報提供を受け，本市日本語教室で行われたものである。

第 3 回授業時に受講者が書いた習字（写真右）と第 11 回授業時に受講者が日本人住民宛てに書いたメッセージカードをボードに貼り付け（写真左），展示を見た日本人住民からもメッセージを書いてもらうよう箱を設置した。展示は平成 24 年 10 月 17 日（水）～11 月 2 日（金）までの約 2 週間，市庁舎 1F ロビーで行われた。

展示ボードを見た日本人住民からは「教室の風景がとても楽しそうです。習字が上手なのでびっくりした」「みなさんの展示を見て私もがんばろうと思いました。ありがとうございました」「総社市にこんなに多くの外国人がいることを全く知りませんでした。もしできることなら，各国の人々と交流する機会を作ってください」のような励ましのメッセージが寄せられた。

市庁舎での日本語教室の展示を通じ，日本語教室が本市で行われていることを地域社会に対して周知し，外国人支援活動に対する理解を求めるとともに，日本語教室が地域に暮らす外国人住民と日本人住民をつなぐ場となり，地域住民による外国人支援活動を地域社会に根付かせるべく，今回の日本語教室の展示は，地域の多文化共生を推進するための基盤作りの第一歩になったと考えられ，今後も引き続き日本語教室活動の一環として行っていきたい。

また，日本語教室の展示パネルは，後日，岡山市にある岡輝公民館にて再展示が行われ，総社市日本語教室での活動をより多くの市民に知ってもらう機会を得た。地域の日本語教室を通じた地域間の連携・相互交流により，より一層，外国人支援活動が活性化するよう，今後も連携を強めていきたいと考えている。

「地域でつながる日本語教室の展示」平成 24 年 10 月 17 日～11 月 2 日（市庁舎 1F ロビー）

（11）　改善点について

毎回の授業終了時に行うミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い，毎月 1 回行うコーディネーター・教授者・市職員との打ち合わせ会，教授者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果（添付資料⑧⑨）により検証を行い，取

り組み内容や実施体制などにつき，以下の改善点があることが確認された。

①日本語教室の授業内容・教授方法

ア）総社市日本語教室での日本語教育カリキュラム・シラバスについて：

今年度日本語教育事業は，「平成 24 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」に従って行ったが，テーマによっては授業の展開が難しいものや易しいものがあり，受講者のニーズの高いもの，より頻度の高い生活場面などは授業回数を増やす必要があるなど，年間を通じて授業を行うことで，改善点のあることが明らかになった。次年度以後は，受講者のニーズや教授者の専門的見地からカリキュラムを検討し直し，より現状に合わせた改善を行う必要がある。

イ）1 回完結型（文法積み上げ式を採用しない）の授業形態について：

本市日本語教室の受講対象者は「生活者としての外国人」であり，日本語学習を必要とする本市に居住する外国人の多くが就労者であるため，継続的に日本語教室に参加することには困難を伴う。このような受講者を中心とする本市の日本語教室において，文法積み上げ式の教室運営を行うことは困難であるが，このことが文法の学習を行わないと誤解されかねないことから，教授者ならびに日本語学習サポーターに対し十分な説明を行う必要があることが確認された。一方で，今年度日本語教室における 1 回完結型の場面シラバスによる会話コミュニケーション重視の授業形態が万全を期するものではなく，学習意欲の旺盛な受講者からは「文法説明をもっとして欲しい」「きちんとした正しい日本語を教えて欲しい」という要望も寄せられている。

重要なことは，それぞれの地域の事情に合わせた日本語教育・日本語支援を行うことであり，当該の地域でどのような日本語教育が必要とされているのか，また，教室運営を行う上での財政上の問題，人材の確保等，ざまざまな状況を勘案したうえで，教室運営の方針を見極めるのが教室運営に携わるコーディネーター・教授者・市職員の役割である。本市の日本語教室で文法積み上げ式を行ってはいけないというものではなく，外国人受講者のニーズや学習環境，学習能力等を総合的に判断し，現状においては文法積み上げ式は困難であると考えられるが，今後，状況に応じて授業方針の改善・変更の可能性があることが確認された。

②日本語教室の運営・実施体制

ア）教授者 5 人によるローテーション体制について：

本市日本語教室においてはレベルの異なる 2 クラスを設けているため，1 回の授業につき 2 人の教授者が必要となる。今年度においては，5 人の有資格者の日本語教授者を確保することができたため，5 人のローテーション体制によって教室運営を行った。教授者 5 人による分担体制によるメリットは，1 人あたりの物理的・心理的負担を軽減することができることであるが，一方で，毎回同じ教授者が授業を担当するわけではないため，授業の引き継ぎや情報共有が行えていない場合にさまざまな不都合を生じることがあった。

こうした状況を改善するため，次回への授業の引き継ぎについては，各授業担当者が，教授者全員にメールで授業報告（受講者人数，新しく来た受講者の有無と国籍・母語・日本語レベル等の情報，授業で扱った文型や内容など，授業中気になったこと，改善点など）をすることで，授業内容の確認，引き継ぎ，情報共有を行える体制を整えた。

また，日本語教育の質を確保するため，本市日本語教育事業においては有資格者の日本語教師を教授者として配置しているが，受講者や日本語学習サポーターからの評判も良いことから，今後も引き続き，有資格者による日本語教室運営を行っていきたい。

イ）日本語学習サポーターの教室参加について：

H22 年度から開始した本市日本語教育事業における人材育成・養成研修において，H22 年度・H23 年度の 2 年間は，日本語教室で日本語を教授するボランティア日本語教師養成のための講座を開設してきた。しかし研修終了後に，ボランティア日本語教師として教壇に立てるような人材が育たなかったこと，また，外国人との接触の少ない本市の地域住民にとって，外国人に接することそのものが心理的にハードルの高い活動であることが明らかとなったため，今年度の人材の養成・研修においては，地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に教授者の補助的存在（＝サポーター）として参加するという形態をとることとした。

教室の開始当初は，日本語学習サポーターの教室内での役割やサポートの方法などが明確でなく，教授者の指示もあいまいで，かつ教授者によりばらつきがあり，サポーターの扱いに苦慮したが，回数を重ねるごとに教授者・サポーターともに慣れてきて，授業の後半あたりからはスムーズに教室活動ができるようになった。今後は，サポーターの教室内での役割や位置づけをより明確化し，サポーターをよりよく活用できるような教室運営を行えるよう改善していきたい。

ウ）日本語教室における通訳について：

本市日本語教室においては，H22 年度より一貫して，総社市多文化共生員である外国人相談員兼通訳であるブラジル人職員を，日本語教室の補助者として配置している。本市に多く居住し，日本語教室の中心的な受講者でもある日系ブラジル人・ペルー人は，来日以後，日本語を使用する機会や学習する機会，地域の日本人住民と交流する場が極めて限定されており，10 年以上日本に居住していても簡単な日常会話すらできない人も多く，日本語をあまり使わない生活環境に慣れてしまっているため，他市の日本語教室に通っても授業についていけず，すぐにやめてしまうケースが多く見られる。

日本語教室には通常，通訳はいないものであり，通訳がいることで学習を阻害してしまう側面もあるが，一方で，本市の日本語教室受講者の日本語学習状況や日本語能力を考えた場合，通訳を介することで受講者に安心感を与え，日本語学習を継続するという意欲につながっているという側面もある。また，日本語教室に補助者として配置されているブラジル人職員は，母語であるポルトガル語のほか，スペイン語，英語にも堪能であり，幅広く対応できるというメリットもある。

だが，日本語教室開設当初はブラジル人一辺倒であった本市日本語教室の受講者は年々多国籍化しており，ポルトガル語だけの通訳では対処できないというだけでなく，ある特定の国籍のみに特化した通訳の在り方や教室の運営方法は，他の国籍の学習者に対し差別感や嫌悪感を与えることになってしまうという懸念が生まれてきた。

こうした問題意識から，今年度日本語教室では，外国人受講者に対してはできるだけ「やさしい日本語」を使用し，通訳は補助的に行うことを基本方針とすることとし，総社市多文化共生事業の一環としての日本語教育事業にふさわしい日本語教室のあり方を模索していく必要があると考えている。

③日本語教室の受講者

ア）受講者の日本語能力におけるレベル差について：

本市日本語教室の受講対象者は「生活者としての外国人」であり，日本語学習の背景も日本語能力もさまざまである。このような受講者の背景だけでなく，財政，人材の確保等諸条件を勘案し，ゆるやかに 2 つのクラスに分けて教室運営を行っているが，両クラス内での日本語能力のレベル差もかなりあり，とりわけ，よりレベルの低いクラスⅠにおける受講者間のレベル差は大きい。受講者の学習環境・学習状況を考えた場合，また，途中から新規受講者が参加することを考えれば，受講者間のレベル差を縮めることは困難を極めるため，教授者にはレベル差が大きいことを念頭に授業内容を組み立ててもらうとともに，授業中においては日本語学習サポーターによる補助を行いながら，教室運営をしていくことの重要さが確認された。

イ）受講者の参加率・継続率の向上について：

本市では，できるだけ多くの外国人住民が参加できるよう，就労者でも通いやすい日曜日の午前中（外国人住民に対するアンケート調査により，この日時を希望する人が多数いることを確認済み）に日本語教室を開設し，小さな子供のいる家庭でも日本語教室に参加できるよう，無料で保育・託児を設けている。それにも関わらず，これまでの 2 年間と同様，今年度においても，受講者数は徐々に減少する傾向にあった。今年度は，年末に受講者宛てに年賀状を送り，日本語教室への参加を促したことにより，若干受講者数の回復が見られたが，受講者の参加率・継続率の向上は今後の大きな課題の一つである。

受講者の学習意欲を継続させるための方法として，授業改善は当然のことであり，その点に関しては，毎月 1 度のコーディネーター・教授者・市職員による打ち合わせ会において授業の反省・改善対策を行っている。他方，よりきめの細かいニーズに対応するため，ニーズ別あるいはより多くのレベル分けを行うことも考えられるが，現状において本市は財政上の問題と人材不足という大きな問題を抱えており，これ以上クラスを増やすことは不可能である。また，受講者の参加率には，日本語教室の開講時期にも関係していると思われるため，2～3 クール制にするなど工夫が必要かもしれないが，本市に居住する外国人住民の多くが定住者であるため，年間を通して日本語教室を開講するほうが，受講者のニーズに対応できているとも考えられ，この点については今後も検討していく必要がある。

ウ）受講者の多国籍化について：

日本語教室開設当初はブラジル人一辺倒であった本市日本語教室の受講者は年々多国籍化しており，特に今年度受講者の母語は，ポルトガル語，スペイン語，中国語，韓国語，英語，スワヒリ語，ウルドゥー語，タガログ語，ネパール語のように多言語化している。その結果，外国人受講者間での共通言語が自ずと「日本語」となり，日本語教室内において，ブラジル人が中国人に日本語で単語の意味を説明する，中国人が韓国人に日本語を用いて漢字を教えるといった行為を引き出し，教室内で母語ではなく日本語の使用を促す効果が認められ，受講者の多国籍化は，通訳の必要性を最小限に抑えることができることが確認された。

流動的な外国人事情において将来を見据えることは難しい現状にあるが，外国人の自立支援のために行う「生活者としての外国人」に対する日本語教室のあり方として，受講者の多国籍

化は喜ばしい状況であると考えられ，今後も状況を見ながら，日本語教室の運営方法や日本語教育事業の方向性を考えていきたい。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

（1） 講座名称

地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修

（2） 目的・目標

地域住民を対象に，言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活支援の一環として，日本語学習をサポートする方法について実践的な研修を行い，地域社会に暮らす隣人として外国人住民を支える「日本語学習サポーター」を育成することにより，外国人支援活動を根付かせ，地域の多文化共生活動を推進するための基盤作りを行う。

（3） 対象者

外国人住民の支援に関心のある地域住民。日本語教育の経験・知識は問わない。

（4） 開催時間数（回数） 31 時間 （ 下記（ア）（イ）の合計 ）

（ア）学習研修：1 回 2 時間×6 回のうち，3 回（2 時間×3 回=6 時間）以上参加

（イ）実践研修：1 回 2.5 時間（日本語教室：2 時間，ミーティング：0.5 時間＝2.5 時間）×30 回のうち，10 回（2.5 時間×10 回=25 時間）以上参加

（5） 使用した教材・リソース

教授者自作教材

（6） 受講者の総数 14 人

（出身・国籍別内訳 日本 14 人 ）

（7） 受講者の募集方法

総社市ホームページ，広報「そうじゃ」6 月号に掲載。募集チラシ（添付資料③）を公民館等文化施設へ配布。

（8） 養成・研修の具体的内容

具体的な研修内容は，以下の通りである。

（ア）学習研修：日本語教育に関する研修を受講

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年7月22日（日）13:30～15:30	2時間	11人	日本（11人）	平成24年度総社市日本語教育事業について	総社市における外国人事情・多文化共生施策の概要，平成24年度総社市日本語教育事業について，日本と南米とのつながり―遠く海を渡った日本人―
2	平成24年7月29日（日）13:30～15:30	2時間	5人	日本（5人）	地域における日本語教育の現状	地域における日本語教室のあり方と実践
3	平成24年8月5日（日）13:30～15:30	2時間	9人	日本（9人）	やさしい日本語	『やさしい日本語』どう作る？
4	平成24年9月23日（日）13:30～15:30	2時間	6人	日本（6人）	外国人とのコミュニケーション	外国人とのコミュニケーション技術の育成とその教材
5	平成24年9月30日（日）13:30～15:30	2時間	8人	日本（8人）	総社市に暮らす外国人が抱える問題	総社市に暮らすブラジル人が抱える問題，総社市に暮らすブラジル人の言語生活
6	平成24年10月7日（日）13:30～15:30	2時間	9人	日本（9人）	地域の日本語教育が抱える問題	「倉敷日本語教室」の歴史と実情ならびに今後の問題点

（イ）実践研修:「地域でつながる日本語教室」に日本語学習サポーターとして参加

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍（人数）	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年8月5日（日）9:30～12:00	2.5時間	4人	日本（4人）	自己紹介	自己紹介をするために必要な表現を学び，実践練習をした。 【イベント】「ともだちをたくさんつくりましょう」ゲーム
2	平成24年8月12日（日）9:30～12:00	2.5時間	6人	日本（6人）	総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を学び，市職員を相手に実践練習をした。 【イベント】「「と」から始まることば」ゲーム
3	平成24年8月19日（日）9:30～12:00	2.5時間	7人	日本（7人）	水道代・電気代など公共料金を支払う	水道・電気・ガス代の請求書・領収書の明細の読み方や料金の支払い方法について学んだ。 【イベント】書道パフォーマンス（講師：松本真明）
4	平成24年8月26日（日）9:30～12:00	2.5時間	6人	日本（6人）	総社市役所の窓口で相談する	総社市役所の窓口で必要となる表現を学び，市職員を相手に実践練習をした。 【イベント】「ともだちをたくさんつくりましょう」ゲーム
5	平成24年9月2日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	ごみの出し方	ごみの種類，分別・回収方法など，ごみ出しに必要な語彙・表現を，実物を使用しながら学んだ。 【イベント】新聞紙でエコバッグを作る
6	平成24年9月9日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	公共交通機関の利用方法	公共交通機関の予約方法や時間の表示方法に必要な表現を学んだ。 【イベント】デマンドタクシー「雪舟くん」利用説明
7	平成24年9月16日（日）9:30～12:00	2.5時間	2人	日本（2人）	日本の昔話	桃太郎伝説発祥の地といわれる総社にちなんで，桃太郎の昔話について学んだ。 【イベント】桃太郎の紙芝居・寸劇・歌
8	平成24年9月23日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	交通マナーを学ぶ	道路標識の種類・意味や，日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。 【イベント】交通安全・交通マナー講習
9	平成24年9月30日（日）9:30～12:00	2.5時間	2人	日本（2人）	買い物をする・スーパーのちらしを読む	買い物に必要なちらしの見方や数字の読み方について学んだ。 【イベント】日本文学講座（講師：新美哲彦）
10	平成24年10月7日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	買い物をする場所	スーパーや量販店への行き方を説明する表現や店内で見かける表示について学んだ。 【イベント】「ことば」ゲーム
11	平成24年10月14日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	病院での初診手続き・容態を伝える	病院で容態を伝え，初診手続きを行うのに必要な表現を学んだ。 【イベント】日本語教室の展示準備作業
12	平成24年10月21日（日）9:30～12:00	2.5時間	2人	日本（2人）	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】日本語教室の展示を見学
13	平成24年10月28日（日）9:30～12:00	2.5時間	4人	日本（4人）	110番・119番に電話し，警察・救急車を呼ぶ	110番・119番への電話通報に必要な表現を学び，実践練習をした。 【イベント】「書き取り」ゲーム
14	平成24年11月4日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	学校制度・学校行事	日本の学校制度や学校行事に関する語彙，季節・時間に関する表現を学んだ。 【イベント】パン食い競争，カルタゲーム
15	平成24年11月11日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	学校での活動	日本の学校で学ぶ教科の名称や，制服・給食など日本の学校に独自の習慣について学んだ。 【イベント】歌「翼をください」
16	平成24年11月18日（日）（授業振替）	―	―	―	国際交流イベントに参加する	カミガツジプラザで開催された「総社国際フェスタ」で，各国料理販売，各国写真展示，歌や踊りのステージに参加した。
17	平成24年11月25日（日）（授業振替）	―	2人	日本（2人）	防災訓練に参加する	山手小学校グラウンドで行われた総社市防災訓練に参加した。バケツリレーによる消火訓練，炊き出し体験を行い，防災意識の向上を図った。
18	平成24年12月2日（日）9:30～12:00	2.5時間	1人	日本（1人）	アルバイト・パートの求人広告の見方	無料の情報誌を利用し，求人広告の見方や仕事に関する語彙を学んだ。 【イベント】「日本の冬」に関する連想ゲーム
19	平成24年12月9日（日）9:30～12:00	2.5時間	4人	日本（4人）	職場でのあいさつの仕方・履歴書の書き方	職場での丁寧な言葉づかいやあいさつ表現，履歴書の書き方を学んだ。 【イベント】「就労支援ルーム」紹介
20	平成24年12月16日（日）9:30～12:00	2.5時間	3人	日本（3人）	図書館・レンタルショップの利用方法	本やDVDを借りる時や返却する時に使う語彙・表現を学んだ。 【イベント】総社市図書館見学
21	平成24年12月23日（日）9:30～12:00	2.5時間	2人	日本（2人）	葉書を書いて出す	年末年始に使うきまり文句や表現を学び，日本の年末行事として年賀状を書く体験をした。 【イベント】年末年始のゴミ収集日について
22	平成25年1月6日（日）9:30～12:00	2.5時間	3人	日本（3人）	冠婚葬祭，誘いを受ける・断る	日本の結婚式・葬式に関する習慣（祝儀，香典，焼香，服装など）や決まり文句について学んだ。 【イベント】獅子舞を見る

23	平成25年1月13日（日）9:30～12:00	2.5時間	3人	日本（3人）	医者の診察を受ける。病気への対処法	病院で診察を受ける際に必要な語彙・表現を学び，実際の診察室で実践練習をした。 【イベント】「「ん」で終わることば」ゲーム
24	平成25年1月20日（日）9:30～12:00	2.5時間	4人	日本（4人）	火災で110番・119番に電話する	火災を通報する際に必要な，けがや火事，場所や道順を教える語彙や表現を学んだ。 【イベント】「色集め」ゲーム
25	平成25年1月27日（日）9:30～12:00	2.5時間	3人	日本（3人）	交通事故を近くの人に知らせる	交通事故を通りがかりの人に知らせる際に必要な語彙を学び，ロールプレイで実践練習をした。 【イベント】消防署見学・消火訓練
26	平成25年2月3日（日）9:30～12:00	2.5時間	2人	日本（2人）	処方箋をもらう。薬の説明を理解する	薬の種類，薬袋や処方箋に書かれてある語彙を，市販の薬など実物を利用して学んだ。 【イベント】節分の豆まき
27	平成25年2月10日（日）9:30～12:00	2.5時間	5人	日本（5人）	日本の観光地・岡山の観光地，行事・祭り	日本国内・岡山県内の観光地・祭り・イベントについて知り，各種情報を得るための表現を学んだ。 【イベント】「「さ」から始まることば」ゲーム
28	平成25年2月17日（日）9:30～12:00	2.5時間	4人	日本（4人）	総社の観光名所・祭りやイベント	総社の観光地や名産物，総社の祭りやイベントについて知り，情報を得る方法を学んだ。 【イベント】「雪舟」紙芝居
29	平成25年3月3日（日）9:30～12:00	2.5時間	8人	日本（8人）	日本の年中行事	日本の年中行事や祝日について，具体的な行事の内容や風習，謂れなどについて学んだ。 【イベント】ひな祭りを祝う
30	平成25年3月10日（日）9:30～12:00	2.5時間	8人	日本（8人）	公共マナー，引っ越しのあいさつ	公共マナーと，引っ越しの際に使う決まり文句や引っ越しのあいさつ時に贈る物について学んだ。 【イベント】合同修了式

（9）　特徴的な授業風景（2～3回分）

（ア）学習研修：

学習研修では，地域の日本語教育に携わる専門家および実際に外国人支援に当たっている市職員により，外国人支援に関する基礎的知識を教授する研修を行った。

第２回　７月 29 日（日） 講師：（財）東広島市教育文化振興事業団 多文化共生コーディネーター　間瀬　尹久 ■地域における日本語教室の実践例として，東広島市日本語教室の活動事例の紹介と，実際に日本語教育活動を行うために必要なグループ活動の方法と活動デザインについて学んだ。	
第４回　９月 23 日（日） 講師：広島市立大学国際学部　　准教授　岩田　一成 ■地域日本語教育におけるコミュニケーション指導の実践的な方法と，ボランティアとして日本語教育活動をする際の教材（『にほんごこれだけ！』を例に）の活用方法について学んだ。	
第５回　９月 30 日（日） 講師：総社市多文化共生推進員　　譚　俊偉 ■総社市に多く暮らす日系ブラジル人が抱える問題について，ブラジル人相談員として総社市役所で活動を行う講師自らの体験談を聞き，外国人の実情を知ることの重要性を学んだ。	

（イ）実践研修：

実践研修では，本市に開設する「地域でつながる日本語教室」に日本語学習サポーターとして参加して実際に外国人住民と交流をしながら，生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んだ。日本語学習サポーターとして教室に参加する際は，教授者の指示に従い，日本語のモデル発話，ペア練習の相手，ロールプレイの見本，レベル差の大きい学習者の補助などを行った。

2 時間の日本語教室終了後に 30 分のミーティングに参加し，担当教授者の司会のもと，授業中の外国人受講者の様子や授業中に感じたこと，日本語学習サポーターとしての自らの活動についての反省・課題等について報告を行った。ミーティングには教授者，日本語学習サポーターのほか，市職員，コーディネーターも参加し，教室内での問題点を共有し，改善方法について話し合った。

（10）　目標の達成状況・成果

本市は，地域に暮らす外国人住民を対象に日本語を指導できる人材が少なく，外国人住民が日本語を学習する機会や，地域の日本人住民と外国人住民が交流する場が極めて限定されているという問題を抱えている。

このような地域の実情を踏まえ，今年度の人材・養成研修においては，本市に暮らす地域住民を対象に，①地域における外国人住民の状況や地域に暮らす外国人が抱える問題，②外国人住民と接する際に必要な「やさしい日本語」の指導や日本語指導の概要，③地域における日本語教育のあり方として他地域の日本語教室の事例報告（今年度は広島県東広島市，岡山県倉敷市から講師招聘）など，地域の日本語教育に携わる専門家および実際に外国人支援に当たっている市職員により，外国人支援に関する基礎的知識を教授する「（ア）学習研修」と，本市に開設する日本語教室に参加して実際に外国人住民と交流をしながら，生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「（イ）実践研修」の 2 つの研修を行った。

毎回の授業終了時に行うミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い，日本語学習サポーター育成研修受講者に対して行った中間・最終アンケート調査の結果（添付資料⑥⑦）により検証を行い，日本語教育を行う人材の養成・研修の実施の目的として掲げた以下の点について，一定の成果を上げることができたことが確認された。

①外国人支援に関する基礎的知識の習得：

日本語学習サポーター育成研修受講者に対するアンケート調査の結果，「（ア）学習研修」に対する評価は良好であり，「外国人相談員の体験談を聞いて感動した。スタッフのみなさんの“思い”を共感することができ，サポーター参加に対するモチベーションアップにつながった」「他

地域の活動事例として，東広島市での体験談を聞けたことが印象に残っている」「日頃，ほとんど異文化接触をすることのない生活をしているが，研修に参加することでいろいろな形で異文化や外国の方に接することができ視野を広げることができた」「日本語教室の作り方や外国人の付き合い方など勉強になった」などのコメントが寄せられた。

②外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得：

日本語学習サポーター育成研修受講者に対するアンケート調査の結果，「（イ）実践研修」に対する評価は良好であり，アンケート回答者全員から「今後も継続して日本語学習サポーターとして日本語教室に参加したい」という回答が得られた。

また，「ボランティアとして参加することが次の生活への張りにつながっている」「国，年齢，性別などを問わず，外国の方々が一生懸命日本語の習得に取り組まれている姿に感銘を受けている」「日本語を熱心に学ぶ受講生とふれあい，自分が彼らからパワーをもらっていると感じている」「参加者，サポーター，スタッフの方々，みんなの“元気な”パワーにふれて楽しい時間を過ごすことができている」といったボランティア参加を行うことで誰かの役に立っているという喜びだけでなく，教室に参加することで外国人受講者や教室運営に携わるスタッフから良い刺激を受け，ボランティア参加への意欲向上につながっていることが確認された。

③地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り：

今年度事業「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」の目的は，地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に参加し，教室内で外国人受講者の日本語学習においてより細かなサポートを行えるようにするとともに，日本語教室が，外国人住民と日本人住民との交流を促し，「地域住民同士がつながる場」として機能するようなシステムづくりを行い，地域社会に外国人支援活動を根付かせ，多文化共生社会を推進するための基盤作りを行うことであった。

日本語学習サポーターとしての具体的な外国人支援活動は今年度始めたばかりであるため，目に見える成果を出すことはできないが，日本語学習サポーター育成研修受講者に対するアンケート調査の結果，「研修に参加することで，人とのつながり，言葉の大切さを改めて実感した」「同じ地域に暮らす外国の方たちと触れ合えてよかった」「日本語学習サポーターがもっといればいいと思う」といったコメントが寄せられ，今回の研修が，外国人支援や多文化共生に対する地域住民の意識啓発につながったものと考えられる。

（11） 改善点について

毎回の授業終了時に行うミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い，毎月 1 回行うコーディネーター・教授者・市職員との打ち合わせ会，教授者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果（添付資料⑧⑨）により検証を行い，取り組み内容や実施体制などにつき，以下の改善点があることが確認された。

①日本語学習サポーター育成研修のあり方について：

H22 年度から開始した本市日本語教育事業における人材育成・養成研修において，H22 年度・H23 年度の 2 年間は，日本語教室で日本語を教授するボランティア日本語教師養成のための講座を開設してきた。

しかし研修終了後に，ボランティア日本語教師として教壇に立てるような人材が育たなかったこと，また，外国人との接触の少ない本市の地域住民にとって，外国人に接することそのものが心理的にハードルの高い活動であることが明らかとなったため，今年度の人材の養成・研修においては，外国人支援に関する基礎的知識を教授する「学習研修」と，地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に教授者の補助的存在（＝サポーター）として参加する「実践研修」の 2 つから構成される研修を実施することとした。

学習研修の評価は概ね良好であったが，少し内容が専門的すぎたという意見や，過去にボランティア日本語教師養成研修を受けた経験のある受講者からは，研修内容の重複に対する指摘があった。また実践研修の評価も概ね良好であったが，学習研修と異なり，参加率がそれほど上がらず，外国人と接することに対する地域住民の心理的抵抗の大きさを改めて痛感した。

受講者全員の満足が得られる研修を行うことは不可能であるが，日本語教育に携わることのできる人材が不足している本市において，人材育成は喫緊の課題であり，新規に日本語学習サポーターを開拓することを最優先に，かつ，継続的にサポートする人材を確保できるよう，研修プログラムについて検討を重ねていきたい。

②日本語学習サポーターの位置づけと今後の方向性について：

日本語教室に日本語学習サポーターとして地域住民が参加するというプログラムは，今年度初めて実施した試みである。教授者にとっても，日本人住民がボランティアで教室に参加する形態は初めての経験であったため，教室の開始当初は，日本語学習サポーターの教室内での役割やサポートの方法などが明確でなく，教授者の指示もあいまいで，かつ教授者によりばらつきがあり，サポーターもどのように活動してよいか分からず，教授者もサポーターをどのように扱えばよいのか苦慮した。

だが，回数を重ねるごとに教授者・サポーターともに慣れてきて，授業の後半あたりからはスムーズに教室活動ができるようになった。今後は，サポーターの教室内での役割や位置づけをより明確化し，サポーターを教室内でより有効に活用できる方法を模索しながら，円滑な教室運営を行えるよう改善していきたいと考えている。

今年度の人材の養成・研修において実施したのは，日本語教室において教授者の補助的存在として日本語教室に参加する「日本語学習サポーター」の育成であり，研修受講者が研修終了後に，地域の日本語教室において日本語の教授者として活動することは極めて難しい。①で述べたように，これまで 2 年間の人材・養成研修での反省を踏まえて今年度のプログラムを作成したのだが，一方で，実際に日本語教育に携わっている教授者からは，今のプログラムではボランティアとしてのやりがいが感じられず長続きしないのではないかというような懸念が示された。

総社市は 1990 年以後，ニューカマーの来日により外国人が増えた地域で，人口比率の点からも外国人集住地域ではなく散住地域であるため，地域住民の外国人との接触経験は少なく，外国人支援の歴史も浅く，多文化共生に対する意識も低い。また，本市には日本語を教えることのできる人材も少なく，ボランティアによる日本語教室もほとんどない。そのような地域で，いきなり日本語を教える人材を育てようにも，ましてやボランティアグループを作ろうにも，容易ではないという現状がある。

今後の方向性としては，将来的に，日本語学習サポーターが自立し，本市でボランティアグループを作るなど，自律的に活動してくれるようになることを目標にはしているが，それを実現させる

ためには，十分な時間と人材の蓄積，そして人材を養成するための場と財政を継続的に確保することが不可欠である。現在の外国人支援を取り巻く状況は決して芳しくなく，将来的な見通しすら立てられない実情の中，流動的な外国人事情・日本語教育事情を鑑みつつ，可能な範囲で少しずつ人材を育成・確保し，継続していくことが肝要であろう。

③日本語学習サポーター育成研修の受講者の受け入れ体制について：

本市では日本語教室に参加する外国人受講者だけでなく，日本語学習サポーターも同様に，小さな子供のいる家庭でも研修に参加できるよう，無料で保育・託児を設けており，この点については託児を必要とする受講者に好評であった。また，受講者が日本語教室に参加する場合には，教室活動中の安全確保のための「ボランティア活動保険」への加入と，受講者間でのトラブル回避のため，「日本語学習サポーター誓約書」（添付資料⑩）の提出を求めた。

以上の点については，教室内の秩序を保ち，教室参加者の安全を守るために必要なことであるが，加えて，教授者から，いくらボランティアとは言え，日本語教室内で責任を持ってサポーターとしての役割を果たすからには，事前に参加予定表を提出して欲しい，そうすればサポーターを有効に活用した授業を組み立てることができ，かつ，サポーター自身も責任感を持って授業参加に臨めるのではないかとの意見が寄せられた。この点については，次年度以後実施したいと考えている。

④日本語学習サポーター育成研修の受講者の参加率・継続率向上について：

サポーターの参加率は回によって異なるが，授業回数が進むにつれ，徐々に参加者が固定化していき，回数を重ねた人とそうでない人とに分かれる傾向にあった。参加回数を重ね，サポーターとしての活動に慣れた人が参加する場合には教室運営上は支障ないが，逆に参加回数の少ないサポーターが教室参加しにくい状況になったきらいもあった。

受講者の参加意欲を継続させるためには，サポーターの役割の明確化と，無理なく楽しく続けられる参加体制が重要であると考えられるため，サポーターの参加率を維持・向上する方法を引き続き検討していきたい。

⑤日本語学習サポーター育成研修の広報・周知について：

受講者アンケートにおいて，日本語学習サポーターの数をもっと増やす必要があること，またそのためには本市日本語教室および日本語学習サポーター育成研修について，さらなる広報・周知の必要性があることが指摘された。その際，日本語教授者でなくても，日本語学習サポーターとして，地域社会で外国人支援活動を行える場があることを周知することを念頭に，次年度以後，より効果的な広報・周知方法について検討したい。

7．　日本語教育のための学習教材の作成

（1）　教材名称

総社市日本語教室編 『地域でつながる日本語教室 2012』

（2）　対象

地域に居住する外国人住民。ゼロ初級レベルを想定。母語は限定しない。

（3）　目的・目標

地域に暮らす外国人住民が，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報が得られる学習教材を作成し，日本語教室で利用するだけでなく，地域社会で安心して暮らせる生活指南書として活用できるようにする。

（4）　構成

【本編】のほか，付録として【ひらがな・カタカナ一覧表】【漢字練習シート】【総社市日本語教室でのイベント】から構成。表記は横書き，漢字かな交じり（カタカナ・漢字には総ルビ。適宜ローマ字表記）とした。

以下の学習教材内容は，文化審議会国語分科会策定の「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」に基づき，地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成 24 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」（30 単位：添付資料①）に従い，作成した学習シラバス（2 時間×30 回＝60 時間）に沿って構成されている。

本編，付録編に収載の内容（目次）は，以下の通りである。

【本編】

総社市日本語教室へようこそ！，1．自己紹介，2．総社市役所で，3．ごみを出す，4．買い物をする・お金を払う，5．乗り物にのる・交通マナーを守る，6．災害が起こったら，7．110 番・119 番に電話する，8．病院へ行く，9．仕事をする，10．学校に通う，11．図書館を利用する，12．年賀状を書く，13．結婚式・お葬式に行く，14．地域を知る，15．日本の一年，16．引っ越しのあいさつをする

【ひらがな・カタカナ一覧表】

【漢字練習シート】

市役所でつかう漢字，ごみ出しの漢字，買い物の漢字，支払いの漢字，スーパーの漢字，食べ物の漢字，洗濯の漢字，乗り物の漢字，交通の漢字，防災の漢字，消防署の漢字，事件・事故の漢字，病院の漢字，病気の漢字，薬の漢字，仕事探しの漢字，履歴書の漢字，学校の漢字（1），学校の漢字（2），図書館の漢字，年賀状の漢字，冠婚葬祭の漢字，岡山の漢字，総社の漢字，お盆の漢字，年中行事の漢字，引っ越しの漢字

【総社市日本語教室でのイベント】

ことばゲーム，ともだちをたくさんつくりましょう！，書道をならう，日本文学にふれる，新聞紙でエコバッグを作ろう！，「雪舟くん」の使い方，交通ルールを知る，防災訓練に参加する，消火訓練をする，総社国際フェスタに参加する，日本語教室の展示をする，図書館を利用する，年賀状を書く，獅子舞を見る，総社を知る

（5）　使い方

本市日本語教室における教室活動は，大きく，以下の 3 つによって構成されている。

①生活に必要な日本語表現の習得・コミュニケーション能力の向上を行う活動
②地域社会で安心して暮らすために必要な地域の生活情報・行政情報の提供・周知
③イベントやゲームを通じた日本語学習・日本語使用促進活動

①の活動においては主に【本編】を利用し，各クラスのレベルに応じた会話練習を行う。

②の活動においては，【本編】に収載した総社市の生活情報・行政情報を利用するとともに，各種情報を獲得するための文字習得においては，付録の【ひらがな・カタカナ一覧表】（クラスⅠ用）と，教授者がオリジナルに作成した「生活場面に即した漢字」をまとめた【漢字練習シート】（クラスⅡ用）を利用する。

③の活動事例は【総社市日本語教室でのイベント】に収載した。

（6）　具体的な活用例

本教材を利用した活用例として「第 2 回：総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ」（平成 24 年 8 月 12 日（日）実施）の授業内容を紹介する。

①【本編】p.9～11 のスクリプトを利用し，総社市役所に電話をするために必要な表現を学ぶ。

②日本語学習サポーターとペア練習を行う。

③日本語教室の運営スタッフである市職員を相手に実践練習を行う。

④【本編】p.9～10：総社市役所にある外国人相談窓口の場所を確認し，相談時間や連絡先についての情報を得る。

⑤【本編】p.12：数字の読み方や電話番号の言い方を学ぶ。

⑥クラスⅠは【ひらがな・カタカナ一覧表】を利用してひらがなの学習，クラスⅡは【漢字練習シート】に収載の「市役所でつかう漢字」を利用して漢字の学習（書き順も）を行う。

⑦クラスⅠとクラスⅡの合同イベントとして，「「と」から始まることばゲーム」を行った。その様子は【総社市日本語教室でのイベント】に掲載。

【本編】p.9

【漢字練習シート】

【イベント：ことばゲーム】

（7）　成果物の添付

電子データ（PDF ファイル）にて送付。

8. 事業に対する評価について

（1） 事業の目的

地域に暮らす外国人住民が，日本人住民との交流を通して，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報を得ることのできる場を設けるとともに，言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を，隣人としてサポートする地域の人材を育成し，外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

（2） 目標の達成状況・事業の成果

今年度「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」においては，以下の3つの取り組みを行った。

①日本語教室の設置・運営:「地域でつながる日本語教室」

②日本語教育を行う人材の養成・研修:「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」

③日本語教育のための学習教材の作成:「地域密着型日本語学習教材作成事業」

各取り組みについての目標達成状況・事業の成果については，毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」，ミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い，毎月 1 回行うコーディネーター・教授者・市職員との打ち合わせ会，日本語教室受講者・日本語学習サポーター・教授者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果（添付資料④～⑨）により検証を行い，一定の成果を上げることができたことが確認された。

①日本語教室の設置・運営:

「地域でつながる日本語教室」は，地域に暮らす外国人住民が，日本人住民との交流を通して，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報を得るとともに，外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう，地域住民同士がつながる場を提供することを目的として，H22 年度より継続的に開設している日本語教室である。

本取り組みにおいては，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上，地域に密着した生活情報の獲得，地域住民同士がつながる場の提供，地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作りという点において一定の成果が認められ，今後も継続して日本語教室を開設して欲しいという強い要望が受講者から寄せられている。

②日本語教育を行う人材の養成・研修:

「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」は，地域住民を対象に，言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活支援の一環として，日本語学習をサポートする方法について実践的な研修を行い，地域社会に暮らす隣人として外国人住民を支える「日本語学習サポーター」を育成することにより，外国人支援活動を根付かせ，地域の多文化共生活動を推進するための基盤作りを行うことを目的として，今年度から新たに開設された。

本取り組みにおいては，外国人支援に関する基礎的知識の習得，外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得，地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための

基盤作りという点において一定の成果が認められ，今後も継続して日本語学習サポーター育成研修を開設して欲しいという強い要望が受講者から寄せられている。

③日本語教育のための学習教材の作成：

「地域密着型日本語学習教材作成事業」は，地域に暮らす外国人住民が，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報が得られる学習教材を作成し，日本語教室で利用するだけでなく，地域社会で安心して暮らせる生活指南書として活用できるようにすることを目的として，今年度初めて行われた。

本学習教材を利用して，①生活に必要な日本語表現の習得・コミュニケーション能力の向上を行う活動，②地域社会で安心して暮らすために必要な地域の生活情報・行政情報の提供・周知，③イベントやゲームを通じた日本語学習・日本語使用促進活動を日本語教室内で行うことができたとともに，今後，地域の日本語教育活動を継続するためにも有効利用できると考えられる。

（3） 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

今年度の本市日本語教育事業においては，文化審議会国語分科会策定の「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」に基づき，地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成 24 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」（30 単位：添付資料①）に従い，学習シラバス（2 時間×30 回＝60 時間）を作成し，①日本語教室の設置・運営，②日本語教育を行う人材の養成・研修，③日本語教育のための学習教材の作成のすべての取り組みに活用した。

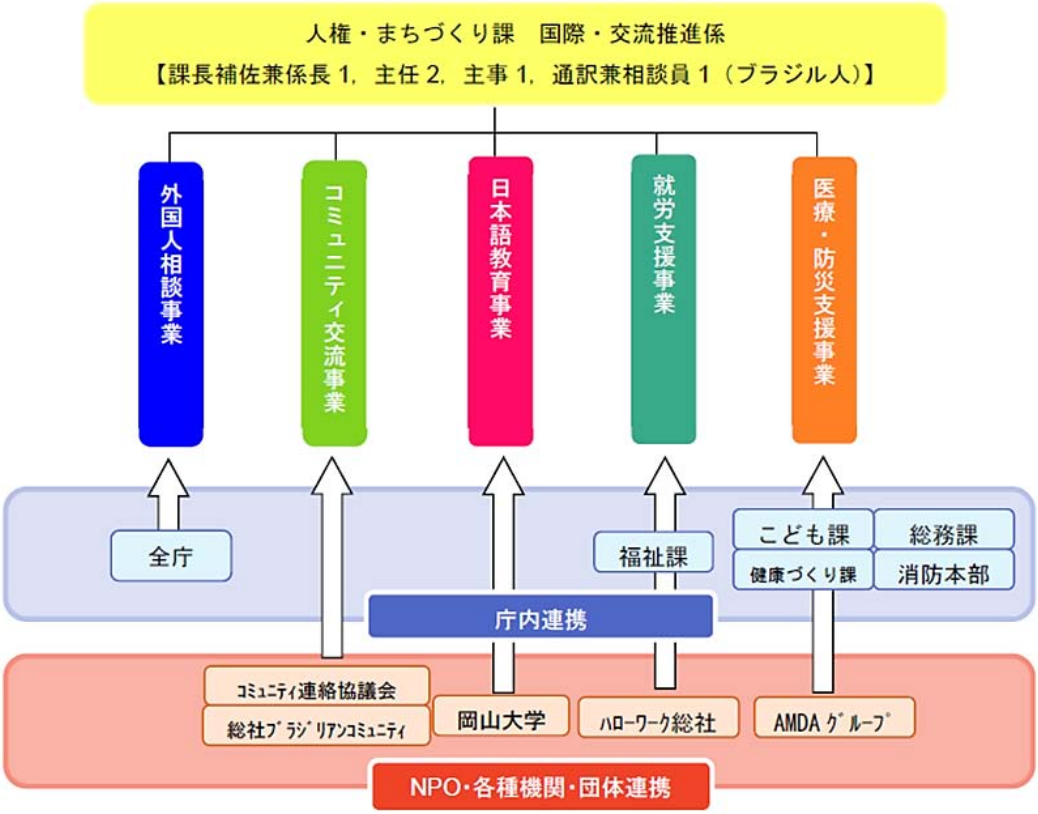
日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報を得ることのできる授業内容は，外国人受講者および日本語学習サポーターにも大変好評であった。「生活者としての外国人」が地域社会の一員として積極的に参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す本市の日本語教育事業のニーズに合致したものであると考えられることから，今後も引き続き利用したい。

ただし，テーマによっては授業の展開が難しいものや易しいものがあり，受講者のニーズの高いもの，より頻度の高い生活場面などは授業回数を増やす必要があるなど，年間を通じて授業を行うことで，改善点のあることが明らかになった。今後は，受講者のニーズや教授者の専門的見地からカリキュラムを検討し直し，より現状に合わせた改善を行う必要がある。

また，文法積み上げ式でない 1 回完結型の場面シラバスによる会話コミュニケーション重視の授業形態は，文法の学習を行わない授業だと誤解されかねないことから，教授者ならびに日本語学習サポーターに対し十分な説明を行う必要があることが確認された。

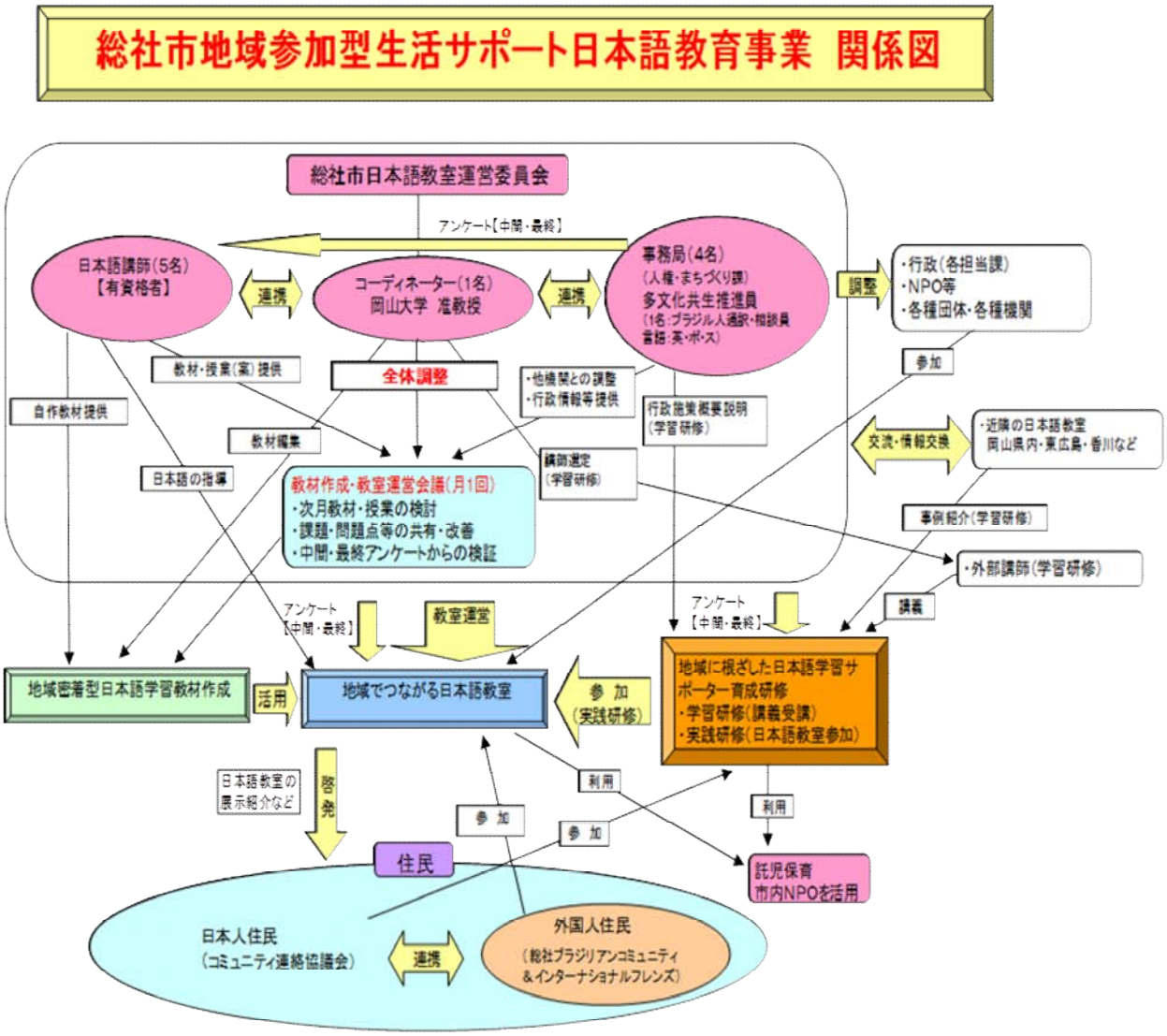
なお，学習意欲の旺盛な受講者からは「文法説明をもっとして欲しい」「きちんとした正しい日本語を教えて欲しい」という要望も寄せられていることから，当該の地域でどのような日本語教育が必要とされているのかを見極め，外国人受講者のニーズや学習環境，学習能力等を総合的に判断し，今後，状況に応じて授業方針の改善・変更の可能性があることが確認された。

（4） 地域の関係者との連携による効果，成果　等



本市日本語教育事業は，総社市を事業主体とし，市民環境部人権・まちづくり課国際・交流推進係を担当部署とした多文化共生施策推進事業の一つとして位置付けられている。人権・まちづくり課国際・交流推進係における多文化共生施策推進の体制については，上に示した通りである（『総社市における多文化共生施策の概要』p.2 より）。

また，本市が実施する「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」のすべての取り組みは，地域関係者との連携によって成り立っている。以下に関係図を示す。



平成 24 年度事業における地域関係者との具体的な連携・事業実績は以下の通りである。

①日本語教育事業運営に関わる学術的調査研究

■総社市における南米系定住外国人の言語生活実態調査(平成 24 年 7 月報告書公刊)

本市に居住する外国人住民の約半数を占めるブラジル人を中心とする南米系外国人に対し，日常の日本語使用や日本語学習状況についての実態調査を行い，調査結果を『総社市における南米系定住外国人の言語生活実態調査報告書』(総社市市民環境部人権・まちづくり課国際・交流推進係編，62 頁，総社市 HP で公開)としてまとめた。本調査研究は，本市日本語教育事業運営委員兼コーディネーターである岡山大学大学院中東靖恵准教授との協働事業である。

本市における日本語教育のあり方や方向性を考えるうえでの基礎的データの収集作業として行われたこの調査研究により，本市の日本語教育が抱える問題点には以下のようなものがあることが明らかとなった。

・本市に多く居住するブラジル人を中心とした南米系外国人就労者は，高い学習意欲を持ちながらも，不安定な雇用状況や経済的事情により，移動が頻繁で地域社会に生活基盤を築きにくく，日本語学習を継続することが極めて難しい。
・南米系外国人住民の多くが来日前も来日後も日本語学習の経験が少ないため，日常生活レベルで日本語能力に問題を抱え，とりわけ「読み・書き」能力においては大きな問題を抱えている。非漢字圏出身者であるため，日常的に用いる易しい漢字の読み書きにも苦労するだけでなく，ひらがな・カタカナの習得すらおぼつかない者もいる。
・南米系外国人住民は非漢字圏出身者であるうえに，媒介語として英語が通じないことが多く，日本人との共通言語が少ないため，地域に暮らす日本人とコミュニケーションを行う上で大きな困難を抱えている。
・南米系外国人住民は，非漢字圏出身者であることに加えて，非アジア圏であるため，日本人住民との文化的差異が大きい。とりわけ日系人の場合は，容姿が日本人に近いだけに，日本人住民からすると逆にギャップが大きい。外見がいかにも「外国人」であれば日本語能力や文化的同一性をそれほど期待されないが，外見が「日本人」である南米系日系外国人の場合には，日本人と同等の日本語能力や文化的同一性を求められることが多く，そのことがさらなる苦悩となっている。
・南米系外国人住民の多くが家族帯同者であり，今後も日本に定住を希望する傾向が強いため，日本語のコミュニケーション能力だけでなく，地域社会で生活するうえで必要な生活情報・行政情報を提供する必要がある。
・南米系外国人住民の多くは，日本語を使用する機会や学習する機会，地域の日本人住民と交流する場が極めて限定されているため，地域社会において孤立しがちであり，10年以上日本に居住していても日常会話ができないことが多い。日本語をあまり使わない生活環境に慣れてしまっており，そのような生活環境が，日本語習得の困難さをさらに助長していることから，地域に暮らす日本人住民との交流の場を創出することが必要不可欠である。

以上のような問題を解決するため，「地域に暮らす外国人住民が，日本人住民との交流を通して，日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら，地域に密着した生活情報を得ることのできる場を設けるとともに，言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を，隣人としてサポートする地域の人材を育成し，外国人住民が地域社会の一員として積極的に参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す」という理念を掲げた「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」を実施することとなった。

②総社市各担当部署との連携

日本語教室における外国人向け体験学習・講習会の実施は，総社市各担当部署との連携により行われている。今年度事業においては，以下の体験学習・講習会を実施した。

■人権・まちづくり課安全安心係による「雪舟くん」利用講習（平成 24 年 9 月 9 日）
■人権・まちづくり課安全安心係による交通安全講習（平成 24 年 9 月 23 日）
■日本人住民との合同防災訓練（平成 24 年 11 月 25 日）
■総社市図書館司書による図書館利用講習（平成 24 年 12 月 16 日）

■環境課によるゴミ収集日のアナウンス（平成 24 年 12 月 23 日）

■総社市消防本部による消防署見学・消火訓練（平成 25 年 1 月 27 日）

③岡山県内の NPO，各種機関・団体との連携

その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は，岡山県内の NPO，各種機関・団体との連携により行われている。今年度事業は以下の通りである。

■AMDA 国際医療情報センターとの協働事業で作成された『総社市多言語医療ガイド』（5 か国語版）を利用した授業の実施（平成 24 年 10 月 14 日，平成 25 年 1 月 13 日，2 月 3 日）

■ハローワーク総社内「就労支援ルーム」との連携による就職支援講習（平成 24 年 12 月 9 日）

■総社市コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティとの連携による国際交流イベントの開催（平成 24 年 11 月 18 日）

■徳眞書道教室講師による日本語教室での書道パフォーマンス（平成 24 年 8 月 19 日）

■ノートルダム清心女子大学教員による日本文学講座（平成 24 年 9 月 30 日）

④岡山県内および近隣地域の日本語教室・日本語教育専門家との情報交換・交流活動

日本語教育事業の発展・活性化を図るため，近隣地域との相互連携・人的交流・情報交換を行い，地域間相互ネットワークの形成を試みている。今年度活動は以下の通りである。

■呉市日本語教室「ひまわり 21」授業見学（平成 24 年 4 月 28 日）

■（財）東広島市教育文化振興事業団・東広島市日本語教室からの講師招聘・交流会
（平成 24 年 7 月 29 日）

■広島市立大学からの講師招聘（平成 24 年 9 月 23 日）

■香川大学・穴吹ビジネスカレッジによる総社市日本語教室視察（平成 24 年 9 月 23 日）

■岡山県県民生活部国際課・岡山県国際交流協会による総社市日本語教室視察
（平成 24 年 9 月 30 日）

■倉敷日本語教室からの講師招聘（平成 24 年 10 月 7 日）

■岡山市岡輝公民館での日本語教室展示パネルの再展示
（平成 24 年 12 月 10 日～12 月 28 日）

■津山にほんごの会による総社市日本語教室視察（平成 25 年 2 月 17 日）

■兵庫県国際交流協会による総社市日本語教育事業視察（平成 25 年 3 月 21 日）

（5） 改善点，今後の課題について

各取り組みについての改善点，今後の課題については，ミーティングでの教授者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い，毎月 1 回行うコーディネーター・教授者・市職員との打ち合わせ会，日本語教室受講者・日本語学習サポーター・教授者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果（添付資料④～⑨）により検証を行い，取り組み内容や実施体制などにつき，以下の改善点があることが確認された。

①日本語教室の設置・運営について：

「地域でつながる日本語教室」の設置・運営においては，①日本語教室の授業内容・教授方法（総社市日本語教室での日本語教育カリキュラム・シラバス，1 回完結型の文法積み上げ式でな

い授業形態について），②日本語教室の運営・実施体制（教授者 5 人によるローテーション体制，日本語学習サポーターの教室参加，日本語教室における通訳について），③日本語教室の受講者（受講者の日本語能力におけるレベル差，受講者の参加率・継続率の向上，受講者の多国籍化について）に関して改善点・課題があることが明らかになった。

②日本語教育を行う人材の養成・研修について：

「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」においては，①日本語学習サポーター育成研修のあり方について，②日本語学習サポーターの位置づけと今後の方向性について，③日本語学習サポーター育成研修の受講者の受け入れ体制について，④日本語学習サポーター育成研修の受講者の参加率・継続率向上について，⑤日本語学習サポーター育成研修の広報・周知に関して改善点・課題があることが明らかになった。

③日本語教育のための学習教材の作成について：

「地域密着型日本語学習教材作成」は，文化審議会国語分科会策定の「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」に基づき，地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成 24 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」（30 単位：添付資料①）に従い，学習シラバス（2 時間×30 回＝60 時間）に沿って行われたが，受講者のニーズの高いもの，より頻度の高い生活場面などは教材の量を増やしたり，同じテーマであっても会話スクリプトや表現・語彙のバリエーションを増やす必要があるなど，受講者のニーズや教授者の専門的見地から検討し直し，より現状に合わせた改善を行う必要があることが明らかになった。

④日本語教育事業の実施体制について：日本語教室コーディネーターの配置

今年度日本語教育事業においては，日本語教室コーディネーターの配置を行い，より円滑な日本語教育事業が行える体制を整えた。本事業におけるコーディネーターの位置づけについては，（4）に示した関係図（p.26）を参照されたい。

本市日本語教育事業運営における実施体制の大きな特徴は，行政が日本語教育事業の事業主体であるため，総社市各担当部署との連携，および，岡山県内の NPO，各種機関・団体との連携体制ができており，地域に暮らす「生活者としての外国人」にとって必要な行政情報の提供が適切，かつ，スムーズに行えること，また，外国人市民と日本人市民との交流を促進し，地域住民同士がつながる場として日本語教室の設置・運営をすることが，地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作りに直結すること，これが最大のメリットである。

一方で，行政に日本語教育の専門に携わる職員がいないことから，事業の方向性や日本語教育の現状・ニーズ把握，日本語教師との連携という事業運営上，意見・見解の相違が起こることが多々あること，また，岡山県内および近隣地域の日本語教室・日本語教育専門家との情報交換・交流活動を円滑に行えないという実情がある。こうした行政と日本語教育関係者との間を取り持ち調整し，両者の見解の相違を解消，円滑な関係作りを行うのが，日本語教室コーディネーターの存在である。

総社市日本語教室コーディネーターは，①事業主体である総社市（国際・交流推進係），②日本語教授者である日本語教師，③日本語学習を必要とする外国人住民，④日本語学習サポー

ターとなる日本人住民をつなぐ『架け橋』的存在であり，これら 4 者との相互連携・調整役を担い，本市における日本語教育の方向性を見極める重要な役割を持つ。

現在の総社市日本語教室コーディネーターは，社会言語学・日本語教育学を専門とする岡山大学准教授である。コーディネーターの専門領域が，ブラジルを中心とする南米日系社会における日本語の継承・変容と日本語教育に関する研究であることから，南米系日系外国人を多く抱える本市日本語教育事業において，その専門性を存分に生かした事業運営を行うことができるとともに，地域社会の教育を担う立場にある国立大学教員であることからも，行政との連携や地域社会への貢献という点において深い理解を示している。

以上のようなことから，日本語教育事業におけるコーディネーターの存在は不可欠であり，今後の本市事業運営においても，コーディネーターを配する実施体制を維持していきたい。

⑤今後の日本語教育事業の方向性：多文化共生社会を実現できるまちづくりを目指して

今年度「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」として掲げた目標は，ある一定の水準において達成されたと考えられる。今後の日本語教育事業の方向性と，事業主体である本市が担うべき役割は，地域に暮らす外国人住民が継続的・自律的に日本語学習を行いながら，日本人住民との相互交流を通して，地域住民同士が繋がる場を提供し，多文化共生への意識啓発・意識醸成を図りながら，継続的に外国人支援を担っていく人材の育成と，外国人住民の自立と社会参加を支援する基盤システムとしての役割を果たすとともに，近隣地域との相互連携を強化し，有機的な人的交流・情報交換が行える地域間相互ネットワークを形成することにより，「多文化共生社会を実現できるまちづくり」を可能にする国際交流と相互理解の中核的拠点として，地域社会に貢献していくことである。

（6） その他参考資料

【カリキュラム】

①平成 24 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム

【チラシ】

②日本語教室受講者用募集チラシ

③日本語学習サポーター育成研修受講者募集チラシ

【アンケート】

④日本語教室受講者用中間アンケート結果

⑤日本語教室受講者用最終アンケート結果

⑥日本語学習サポーター用中間アンケート結果

⑦日本語学習サポーター用最終アンケート結果

⑧日本語教授者用中間アンケート結果

⑨日本語教授者用最終アンケート結果

【その他】

⑩日本語学習サポーター誓約書